



下田めぐみ 議員

**下田** 3号バイパスは本来に必要なのか。運送業を始め多くの意見は、八女から広川まではい。広川から久留米の整備を優先すべきというのが現状である。

**町長** 大型車をバイパスに逃がすことで、現道の交通渋滞を減らし時間の短縮ができる。久留米方面の必要性は十分認識している。課題を整理し、久留米方面への道路整備に向け検討をする必要がある。

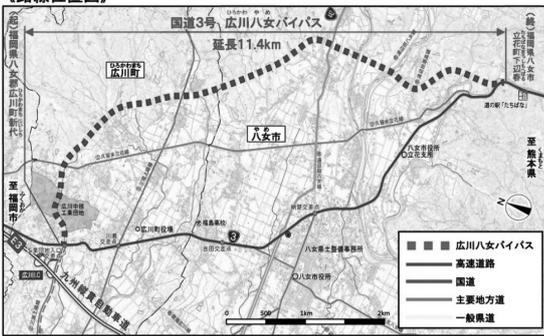
**下田** 運送業が抱える2024年問題は、上限規制がなかった

国道3号  
広川八女バイパス

**Q** 40代の町長が描く国道3号広川八女バイパス事業に対する考えを問う

**A** 国道3号広川八女バイパスの整備は非常に重要である

《路線位置図》



3号バイパスの路線図

時間外労働に、令和6年4月1日より960時間の上限が設けられる。運送業は時間短縮、人材不足のため、船や鉄道での輸送を見据えている。バイパスの意味がなくなるのではないか。

**町長** 交通量自体が今超過している。バイパスを整備して、通過交通を迂回させることは重要と考える。

**下田** 交通は、生きていく中でなくてはならないもの。広川町では車がないと生活できない方が多い。ふれあいタクシーの土日祝日の運行ができないか。見直す時期が来ているのでは。

**町長** 町だけではできないが、公共交通を今後検討しなければならぬ。他の交通事業者と検討していきたい。

**下田** 茨木県では、既に自動運転のミニシティバスが運行して

ふれあいタクシー

**Q** 平日のみの運行で、土日祝日が運休。町としての施策はないか

**A** 町だけでは出来ない。平日の料金の値下げを行う

いる。三潁上陽線のような直線で平たん、町内各地域を全て結ぶ道路は県内でも珍しい。自動運転ミニシティバスのモデルケースにふさわしい。JR西牟田駅につながる利便性をアピールできる。時代を読んでこそ未来は開ける。そのためにも、三潁上陽線の整備をお願いする。交通インフラというのは、一番大事な問題である。

**下田** バイパスは、広川・久留米間ならば、理解できる。日本経済新聞に「公共工事5割、見知り甘く費用対効果、着工後に悪化、政策判断を誤る恐れ」とある。町民に周知しているのか。

**町長** 都市計画決定を受ける段階で周知するために、色々な説明会を行った。これからも、ホームページ並びに広報誌での周知

をしつかり行う。

**下田** 本来に必要ななら説明責任を果たすべきだ。便利なものは、あってもなくてもいいもの。必要なものはなくてはならないもの。バイパスよりも、三潁上陽線、藤山線、河川の整備が重要である。